

北海道各地から産出する黒曜石
その12もんべつちいき
紋別地域

(Monbetsu Area)

この地域では、上モベツ川上流域の他、上モベツ九線川流域やシマララギ川流域、シブノツナイ川流域などで中期中新世(約1,000万年前)の上モベツ流紋岩溶岩部層が知られております。このうちの“黒曜石及び真珠岩溶岩”(八幡ほか、1988)(松波ほか、2002)の層が分布する地域一帯が、噴出源であると考えられます。

上藻麓(かみもべつ)川の林道沿いにオホーツク海側へ向かって進んでいくと、左側に黒曜石の露頭が現れ、そこからたくさんの黒曜石を採取可能です。そこには黒曜石の溶岩が存在し、それらは黒色～暗灰色を呈しています。またいわゆる“茶の石”や“花十勝”も若干採取できます。それらは水和層が発達し、偏光顕微鏡だけでなく、肉眼でもはっきりと分かるくらい真珠岩構造を有するものが多く見られます。そのため石器の材料としては決して良質とは言えません。従って、周辺の遺跡から発掘される黒曜石製の石器には、ほとんど使用されていないと考えられます。

上モベツ川流域でも、簡単に多くの黒曜石を採取する事ができます。しかし、こちらも良質とは言えず、ハンマーで割った時、ガラス質特有の綺麗な面で割れず荒くザラザラした面になります。また、多くの球顆や晶子が層状に入っており、その様子などからも噴出後に流動した様子がよく分かる黒曜石でもあります。こちらも残念ながら石器の材料には向きませんが、外観は今までのサンプルにはない類で、よく目立ちます。この上モベツ川には、面白いことに隣接した遠軽地域の黒曜石も、少量ですが一緒に転石となって採取できますので調査が必要です。

EPMA(電子プローブマイクロアナライザー)の分析では、独立した紋別組成グループに分類されますが、他の産地の黒曜石に比べると、水分が多く含まれているようです。また、外観だけでも区別可能です。

(学芸員 向井 正幸)



黒曜石の溶岩が川沿いに大きな露頭となって見られる。良質であれば、一大産地になり得た規模。



人頭大以上の黒曜石の礫がたくさん採取可能である。ややガラス質であり決して良質とは言えない。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

